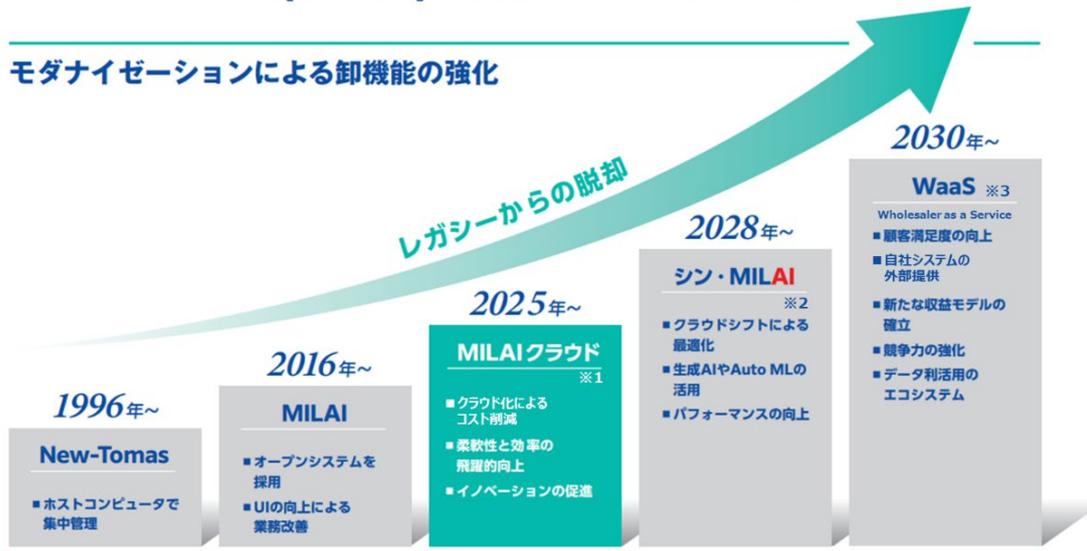


基幹システム（MILAI）の刷新プロジェクトを開始  
～全ての業務にAIを導入し、ビジネスの成長を加速～

三菱食品株式会社（東京都文京区）は、基幹システム（MILAI）のフルクラウド化を皮切りに、MILAI刷新プロジェクトを2024年8月より開始します。

メインフレーム（大型コンピュータ）の旧基幹システムからオープン系システムに移行して約8年が経過しましたが、食品流通業界が抱えるレガシーシステムの課題、急速な技術革新など、変化するビジネス環境への迅速な対応がますます重要となっています。このような背景を踏まえ、当社は経営計画「MS Vision 2030」に掲げた「データ活用基盤の強化とAI技術の徹底活用」の実現を目指し、2030年までの基幹システム刷新プロジェクトのロードマップを策定しました。

基幹システム(MILAI)の刷新プロジェクト ロードマップ



- ※1: 基幹システムを、オンプレミス（自社で管理・運用）からクラウドサービスに全面移行することで、システム管理コストや運用負担を大幅に軽減（2024年8月よりMILAIフルクラウド化プロジェクトを開始、投資額は約100億円）
- ※2: 受発注、物流、販売、在庫、会計など、各機能を個別にリファクタリング（プログラムコードの見直し）や再構築を行い、システムをマイクロサービス化（大規模なシステムを小さな独立したサービスに分割）することで、パフォーマンス向上とコスト最適化を実現
- ※3: 食品卸の多様な機能をクラウドサービスで提供し、様々な企業が自社のシステムに組み込んで利用できる仕組を構築

本プロジェクトでは、先端デジタル技術と最新アーキテクチャ（設計思想）を採用し、クラウドサービスのメリットを徹底活用した基幹システムへ刷新します。また、AIやAutoML（自動機械学習）を融合させ、あらゆる業務の効率化と高度化を図り、卸機能全般の強化を目指します。

さらに、昨年度先行構築した、クラウドデータ活用基盤と連携し、全ての内部データと外部データ（気象・人流情報など）を統合・加工・分析することで、全社の迅速な意思決定や業務プロセスの自動化を加速的に推進します。また、企業間の壁を越えたデータ利活用のエコシステムを構築し、新たな価値創造を目指します。

当社は「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」というパーパスを実現するため、基幹システムやデータ活用基盤のモダナイズ（近代化）を強力に推進してまいります。